

寺 報



第170号  
 発行人 徳 伊 勢  
 発行所 真宗大谷派 称念寺  
 知立市新地町西新地65  
 TEL (0566) 83-8888  
 FAX (0566) 84-1262  
[www.shounenji.com](http://www.shounenji.com)  
 印刷 株式会社 クシロ印刷

# 爪、微生物、体温、いのち

或る日の夕食後、高校生活を送っている次女が、思春期特有のイライラした気分で「あーもう。切っても切っても足の爪が伸びてくる」と愚痴をこぼした。私は面白いなと微笑んだ。振り返れば三人娘の子育てに、小学校を卒業するまでとは、風呂に加え散髪や爪切りも私がその役割を担った。深爪の痛みか面倒からか、手指の爪が伸びても「切ってくれ」と自発的に頼まれることは稀で、不潔だから切りなさいと私の方から急かすことが多かった。高校に入り、宿題やテスト勉強には親の援助なく、生活全般にも自身の責

任が増えたことで、ふと漏れた想いであつたのだろう。一度、知人にこの話をしたところ「生きているのだから当たり前ですよ」と、至極真当な答えが苦笑と共に返ってきた。立派な真宗門徒であれば「そんな馬鹿な」と一蹴するのかもしれないが、私には「そうだよな」と共感できた、人間

の内在的な本質に関わる台詞として記憶の片隅に残された。

世界中を巻き込み世紀の騒動となつた新型コロナウイルス、昨今は五類に分類されたことで緩やかに変容した。一時は全国的な屋内待機だけでなく、今思えば偏執的とも言える様々な措置が強化され、個々の事情は知り得ないが、近所にも物騒な軍事用防毒マスクで買物をする老人も出現した。そも地球上にはウイルスや細菌といった無数の微生物が生息し、目に見えないため意識してこなかったが、その総重量はあらゆる動植物より重いと云われ、人間の腸内にも約千種類、百



徳風5歳児 櫻木心晴『サメ』

兆個もの腸内細菌が存在し、私の体重の二キログラムほどを占めると云うから驚きである。この惑星で、微生物は全ての生命が生きるサイクル(循環)に貢献しており、欠かすことのできない免疫や発酵、毒素や腐敗までも自然界の必須要素である。つまり共に生きていく、否、厳密には微生物のおかげさまで生かされていると言った方が正しい。しかも人間に害をもたらす微生物は、全体の一万分の一以下だという。老衰の末に風邪で亡くなられたのであろうが、メディアでは「九十代の老人の死因が新型コロナウイルスであった」と喚き立て、都合の悪いウイルスのみ根絶やしにしようとは、そうは問屋が

8月10日(木) 午前8時・10時

## お盆法要

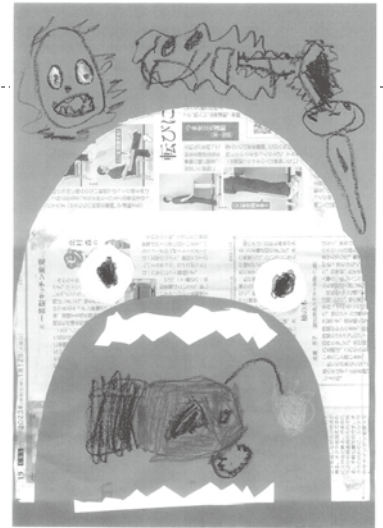
法話 高柳正裕師

卸さない。現在では過度な消毒等による免疫低下で他の感染症が流行する逆転現象となる始末だ。凡そ「驕慢」という自我、つまり仏教の課題なのである。

仏道では、人間の「邪見」に対し、仏の「正見」と云うが、僧侶の私が傲慢でない正しい見識を持つのでは無論ない。この三年というものは、職場の保育園でも飲食店でも、五十年の人生で最も頻繁に検温し、ふと気付かされたことがある。私の平熱は三十六度八分だと思っていたが、中年となり変化したのか常に六度四分、自身の体に宿る不思議な奇跡であった。最新設備のある家ならいざ知らず、風呂桶の湯にせよ、常に適温を保つなど不可能だ。因みに、一般的に「いいかげん」とは無責任や出鱈目を意味するが、これは元々仏教語であり「好い加減」、湯加減でいえば熱くもなく冷たくもない、或いは母親が「いいかげんになさい」と叱る、丁度良い具合で

という生き方の「中道」を示す大切な教えである。私にとつては三十六度四分。日本には四季があり季節も日々移り変わる。朝晩で気温も異なり、ときに雨に濡れたり薄着しすぎたり、暑ければ冷房や除湿を設定し氷水を飲み、冬には便座すら暖かく、寢床では毛布と布団で保温されている。体温は、一度でも違えばもう辛く、二度も上がれば動けまい。私の意図することなく完璧に維持されており、この事実は純粹にコロナ時代に得た、大いなる発見であった。

ひとたび風邪を引けば、自らが死なない程度に発熱し、体内に侵入したウイルスと闘つてもくれる。ニホンミツバチの生態にも通ずる、「生きようという意思」を持つ遺伝子オオスズメバチが巣を攻撃すると、体の小さなミツバチは大勢で取り囲み蜂球を形成し、その胸の筋肉を震わせ周囲の



徳風 5歳児 坂田瑛太『サメ』

温度を上昇させ、体重差が三十倍もあるスズメバチを蒸し殺す。スズメバチは四十五度以上の環境では生きられず、ミツバチは四十九度まで耐えることができるため、四十八度まで球内の温度を上げ殺すのだ。この行動は漫画の必殺技の如く「熱殺蜂球」と名付けられている。驚嘆すべきは、蜂球に参加したミツバチの生き残りは、身に受けた熱の代償で健康な個体より余命が短くなるのだが、次にスズメバチと戦う場面では率先して蜂球の中央に行き自らを犠牲に集団を守るという。最近はその副作用と効果を天秤に掛け追加接種をしない高齢者も増えたが、一時は巷で「若者がワクチンを打たないから私

ら年寄りが困る」とまで語られた、人間と蜂の違いはやはり自我にある。

今から五百三十年前に書かれた、浄土真宗八代目の蓮如上人のお手紙に『疫癘の御文』がある。伝染病が七年半も流行した当時、現代とは異なり栄養や薬も十分でなく、子供を含む多くの人々が命を落とすという。地獄の世相の中、上人は「さのみおどろくまじきこと」それほど驚くことではない、「生まれはじめしよりさだまれる定業なり」、つまり産まれた時から病気になるれば死ぬ宿命なのだ、丁寧に伝えていく。少し見つめてみれば、髪の毛が伸びるのも、心臓が動くのも、食物を消化するのも、呼吸も寝ることも、休憩することや痛みを感じることも、全て「私」がしているのではない。私達は、当たり前でないことを当たり前にし、驚きも感動も感謝すら置き去りにし、当たり前のことを当たり前でないこととし、善悪と損得の都合で受け止め

仏典マンガ

絵：小川ゆきえ <61>

# 仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』 インドの説話集、世界最古の物語集です。



る。その最も顕著な偏見が生老病死、つまり人と生まれたこと、古い、病氣、そして死にある。

もう亡くなられたが、仏教に造詣が深いユング派心理学者の河合隼雄は、その著書で「自分とは何か、見つめ続けるとすごい世界が見える」と、「戦争も飢餓も全世界が共鳴して私という人間を生かしてくれている」と語った。仏教の核心は、阿弥陀仏の極楽浄土という物語をして、人間の愚かさは、自らの眼に見える邪見を真とし迷う暗さ、つまり「無明」にあると二千五百年前から伝え続けた歴史に在る。先祖の供養も、墓に遺骨が納められた両親と祖父母だけでは私達の毛先程度。無量の寿こそが私の祖先なのだ、改めて教えを聴聞するところに、お盆をお迎えする意味がある。

「文章 若院」

涼風の 曲がりくねって  
きたりけり 小林一茶

### 若院の伝道掲示板

- そのままで居られる場所をみな求める
- 大事な人 大事にしますか 一期一会
- 当たり前の 今日も明日も 二度とない

### 講師紹介

高柳 正 裕師

愛知県に生まれ金沢大学文学部を卒業後、タクシー会社、鉄工所、住み込み新聞配達員などを経て浄土真宗を学びはじめ、本山・東本願寺の教学研究所に23年間勤める。元同朋大学非常勤講師。学仏道場「回光舎」主宰し、時代社会を見つめつつ、真剣に道を求める有縁の人々と語り合い共に歩んでいる。

### ■ 娑婆の縁尽きて

野村 義弘 81 内幸町 6・11  
成瀬やす子 90 弘 栄 ・ 11  
穴戸 宣之 82 豊田市 7・10

### ■ お盆を前に

自宅のお内仏(仏壇)に、夏用の打敷を掛けましょう。もしあれば「切り灯籠」を吊り下げます。お内仏の仏具はおみがきし、お墓の清掃も心掛けましょう。仏華の材料は、「槇」の芯と「ほおずき」が良いでしょう。

### ■ 夏・本堂のおみがき

8月3日(木)午前9時より、本堂にて仏具のおみがきを行います。お手伝いいただける方は宜しくお願いいたします。

### ■ 墓地(一向浄苑)の申し経

8月13日(日)、14日(月)、両日ともに午前7時〜9時、午後6時〜8時まで。小雨決行いたします。例年13日夕方の「万灯会」は受付が混雑しますこと、ご了承ください。

### ■ 用の美としてのお内仏

市内の仏壇店の数がめつきり少なくなってきた。加えて品揃えの良い大型店などにあつては、各所で店じまいの感が顕著であろう。

真宗のお内仏(仏壇)は特

に格調が高く宗派独特の形態が見られる。大谷派・本願寺派・高田派など独自の什物があつて違つて居ます。燭台(ローソク立て)は鶴亀、香炉は透かしの青磁、花瓶は八藤紋・牡丹紋を表現したものである。

輪灯は油を燃料として明りを点していたが、かれこれ30・40年前より電飾に変わつてきた。この配線などが古くなつて修理・付替え・LED化などが多く見受けられる修理だ。こうした事や仏具の修理・洗いなどなどは、本堂の仏具一式を請け負つた、松本仏壇店(大阪府の八尾市)の社長、松本さんには、ご門徒各位の小さな相談や困りごとでも、格安価格にて現在も快く対応していただいている。月に一度は来ていただいているので、何かあれば寺までご相談ください。

「住職」

### ■ 秋彼岸法要

9月23日(土)  
午前8時・10時

法話 佐野明弘師  
(大谷専修学院院长)